

シャイン

— 受講のきっかけと今 —

シャイン 005号

『救急隊員の現場対応講座』 を職場内で開講！

渡辺 新一さん

会社名：茨城西南広域消防本部 所属：坂東消防署 当直司令

資格：産業カウンセラー



【受講のきっかけ】

郊外を車で走っていると、素敵な家がどんどん建てられているのを目にします。窓越しに見ては「あの家良いな～」と素敵な外観に自然と視線が釘付けになることもあります。ある日、ちょっとだけ視野を広げて見ると、家の外観は違えども、どれもしっかりと土台の上に建てられているのに気づかされました。48歳の時、救急救命士の資格を取得、消防人生の大きな転換を迎えると共に重い責任が増えました。救急隊長として、災害現場という特殊な環境で、様々な方々と接していくうちに、頑張りでは変えられない部分があることに気づかされたのです。それは、自分の中で眠っていた初対面の方々への苦手意識でした。養成講座の受講は、初対面の方々への苦手意識の克服でもあり、それが僕の土台になるのだと直感的に思ったのです。

【資格取得後の活動状況】

養成講座の勉強で、徐々に土台が出来始めると苦手意識が薄らぎ、現場対応に生かされ始めました。例えば不安、痛み、孤独などを抱えた方々への対応は、以前と比べて格段の差を感じるようになったのです。その差を実感できたのは、養成講座の学びを土台に、救急隊長として現場活動の経験が1年程経ったときのことでした。

ご年配の男性が就寝中発作を起こし、奥さんが発作をみてパニックになってしまい、夫が緊急事態なのだから本来ならしっかりしなければいけないときに何も出来なかった自分を責め、大声で泣き叫ぶだけだったのです。私は、泣き叫ぶ奥さん

に「旦那さんが隣で意識を失って本当に驚いたと思います。心配だっただろうし、不安だったと思いますよ。僕たち様々な現場に行きますが、家族の方が病気や事故になったときは、誰でも慌てしまうものです、奥さんだけではありませんよ。でも奥さん、頑張ったじゃないですか！ そんな慌てている中でも、ちゃんと旦那さんのために119番出来たじゃないですか。だから僕たちがここに来ることが出来て、対応出来たのですよ。」と奥さんの気持ちに共感し伝え返すことにより、奥さんは「でも…」と言いながら大きく息を吐き、僕たちの質問に答え始めてくれたのです。

また、協会の講座で、メンタルレスキュー協会のことを知り、そこで知った「惨事対処」や「死にたい気持ちを持った方への対応」の技術は、あまりにも救急現場で使えることに驚き、直ぐ講座を受講しました。数年後の今、それらの技術を救急隊員に知ってもらえるように「救急隊員の現場対応」という講座を職場内で開くことになりました。養成講座と言う土台の上に、現場対応の講座という骨組みを建てることも出来たのです。更に、土台の力は、養成講座の友人と共にグループ学習「クルールつくば」の立ち上げにも寄与してくれました。今後は、自分の中の土台を堅固にしつつ、外壁と自分らしい内装を仕上げたいと思っています。原稿作成の手を休めて目を閉じてみると「養成講座を受けて良かったな～」と安堵感からゆっくり息を吐く自分に気づきました。